

## 第2回野口英世アフリカ賞受賞者について



■ 医学研究分野 受賞者  
**ピーター・ピオット**博士  
ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院学長

### 「研究」ととどまらない幅広い活躍による エイズ死亡率の低下への貢献

1949年ベルギー生まれ。1976年、ゲント大学(ベルギー)にてM.D.(医学博士)取得。1980年、アントワープ大学(ベルギー)にてPh.D.(微生物学)取得。現在、英ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院学長。

第2回野口英世アフリカ賞(医学研究分野)受賞者のピオット博士は、常に活動の拠点をアフリカに置き、近年のアフリカにおいて最も致死率の高い感染症であるHIV/エイズとエボラ出血熱をはじめとして、クラミジア、結核及び淋病を含む、アフリカ大陸の多くの地域に存在する疾病についての中心的な研究を行った。アフリカ各地の現場での研究と国際的な政策立案の双方に携わる類い稀な人物であり、科学的発見や見識を、世界中の人々、とりわけアフリカの人々のために役立ててきました。

1976年には、アントワープの熱帯医学研究所で研究を開始し、疫学、ウイルス学及びアフリカで破滅的な打撃をもたらしている疾病の臨床分析に惜しみなく情熱を注ぎ、アフリカ大陸全体の研究と医学関係者の養成に献身しました。

また同年、ザイール(現コンゴ民主共和国)でエボラ出血熱を発見したチームの一員であり、アフリカにおける異性間の性交渉によるHIVの感染と小児のエイズ感染、またアフリカにおけるHIVの感染と結核との関連の存在を確認した最初のグループの一人でもあります。

研究だけに留まらず、傑出した科学的な論文の発表と国際場裡での精力的な役割を通じ、HIVの大流行に対する地球規模での注意と関心を惹起し、HIVの大流行に対する資金調達やコントロールへの国際的な関与を高め、HIVのコントロールと処方に対し科学的に根拠のある対応をしました。

#### 主な経歴

1974年  
ゲント大学(ベルギー)にてM.D.(医学学位)取得  
1980年  
アントワープ大学(ベルギー)にてPh.D.(微生物学)取得  
1992年  
熱帯医学研究所(ベルギー)微生物免疫学部教授  
1992年  
世界保健機関(WHO)世界エイズ戦略副ダイレクター  
1995年  
国連エイズ合同計画(UNAIDS)事務局長  
2009年  
ビル&メリンダゲイツ財団シニアフェロー  
2010年  
英国インペリアル・カレッジ教授  
2010年～  
ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院学長



■ 医療活動分野 受賞者  
**アレックス・G・コウティーノ**博士  
マケレレ大学感染症研究所所長

### 世界規模でエイズ対策に影響を与えた コウティーノ博士のモデル

1959年ウガンダ生まれ。1983年ウガンダ・マケレレ大学にてM.D.(医学学位)及び科学修士号取得。2001年Witwatersrand大学(南アフリカ)にて修士号(公衆衛生)取得。前TASO(The AIDS Support Organisation)事務局長。現在、マケレレ大学感染症研究所所長(Infectious Diseases Institute – MAKERERE University)。

第2回野口英世アフリカ賞(医療活動分野)受賞者のコウティーノ博士は、現在全世界に3千4百万人いると推定されているHIV感染者の7割が住むアフリカにおいて感染者が治療を受ける機会を増やす先駆的な活動を行いました。

そして、アフリカで長く活動を続けているHIV感染者支援団体であるTASOと共に現場で活動し、HIV/エイズの予防、治療・ケアの仕組みを構築し、アフリカで広く適用できるモデルとして普及させることで、HIV/エイズに打ちひしがれた患者、患者家族、及びコミュニティに大きな力を与えました。

コウティーノ博士の普及モデルは、アフリカの最貧困層のニーズに焦点を当て、長い間医療が行き届いていなかった人々に対しHIV/エイズの治療・ケア及び支援を施すことに成功し、アフリカのニーズに応えることのできるモデルとして広く活用されました。

更にコウティーノ博士はTASOのコミュニティ・モデルを採用し、抗レトロウイルス療法がウガンダ中に行きわたるように、そのモデルを拡大して適用しました。

このモデルは現在世界的に広がり、貧困者が居住地域で治療を受けることを可能にしています。

#### 主な経歴

1983年  
マケレレ大学(ウガンダ)にてM.D.(医学学位)取得  
1983年  
セント・フランシス・ンサムビヤ病院に勤務(インターン)後マケレレ大学医学部助手となり科学修士号(生理学)取得  
1989年  
スワジランドへ移動、民間セクター初のHIV啓蒙・予防プログラムを立ち上げ自らもHIV症例の治療に当たる  
2001年  
ウガンダに帰国、TASO(The AIDS Support Organisation)事務局長  
2001年  
世界エイズ結核マラリア対策(GFATM)基金を創立した創設グループに加入。その後GFATMの技術審査パネル副委員長  
2007年～  
マケレレ大学感染症研究所所長

# 第2回野口英世アフリカ賞受賞者からのメッセージ

## 医学研究分野:ピーター・ピオット博士(ベルギー国籍) ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院学長



野口英世アフリカ賞の受賞者に選んでいただき、非常に光栄に思い、感謝しています。野口博士は医学研究の歴史において特別な地位を占めており、梅毒、黄熱病、レプトスピラ症、トラコーマ、そしてその他の感染症についての野口博士の研究の独自性は世界中で認められています。野口博士の研究室と現場での勇気と献身は、幾代にも渡り研究者達を鼓舞してきました。野口博士は国際人であり、色々な意味で今日、我々が国際保健と呼んでいる分野のパイオニアであります。私はアフリカで、研究室での科学と現地の人々に基づいた研究、政策、現場での生命を救おうとする活動に橋を架けようとしてきましたが、野口博士は私のアフリカでの感染症の研究にとってインスピレーションを与えてくれました。

日本国政府は、野口博士の遺産を顕彰するだけでなく、我々が今現在直面している世界的な課題への共同のアプローチを促進するため、特にアフリカ開発会議やその横浜行動計画を通じて、日本のアフリカへの献身により、大変大きな展望を示しました。

私個人の話になりますが、家族と、過去40年以上に渡り、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、日本、そして国連合同エイズ計画(UNAIDS)において、私を助け、導いてくれた沢山の世界中の素晴らしい同僚たちに感謝したいと思います。

私たちが力を合わせて感染症に対し成功を成し遂げている一方で、エイズ、結核、マラリアは、特にサハラ以南のアフリカにおいては、その制御からは程遠くなっています。新たな病原体は出現し続けています。私たちはこれからも長く地域的、世界的な努力を続けなくてはならないのです。

## 医療活動分野:アレックス・G・コウティーニョ博士(ウガンダ国籍) マケレレ大学感染症研究所所長



第2回野口英世アフリカ賞医療活動分野の受賞者に選ばれたというニュースを聞き、大きな喜びに圧倒されています。野口英世博士を顕彰する日本国政府と日本の皆様に認めていただいたことは、アフリカの医師として最大級に認めていただいたことを意味しています。

野口博士の生涯は、世界で何度も何度も重ねて語り続けられるべきインスピレーションであり、私も語り続けていくと誓います。私はアフリカで主にHIV、結核、マラリアに焦点を当て、過去30年の間に医学と公衆衛生を実践してきました。そして今、この賞が、今までの全ての眠れぬ夜、苦しい日々を意義あるものに変えてくれました。

HIVと共に生きる人々、私の恩師、同僚、私が光栄にもリーダーシップを取ってきたThe AIDS Support Organization (TASO)やマケレレ大学感染症研究所のような素晴らしい機関との協力関係や、信頼、支援無しでは、この賞を受賞する事は不可能だったでしょう。私はこれらのお世話になった全ての人に受賞について伝え、感謝し、敬意を表したいと思います。

私は今、この受賞により野口博士の功績を讃え続け、アフリカの人々の一層の健康増進を目指すという義務を与えられました。そしてそのために絶えず働き続けることを誓います。

アフリカで野口博士のように職務を継承する私たちに希望を与えてくれると共に、日本の皆さんの偉大なる息子である野口博士の功績を讃え、先見の明を有する日本の皆さんとそのリーダーシップに感謝します。